

学位授与の方針（全学）

本学の建学の精神は「禅的仏教精神による人格の陶冶」である。その教育の目的は、どのような状況であっても主体的に行動できる、自立性・自律性を涵養することである。それはまた、「己事究明」を基盤とし、専門的知識・技術を身に付けることを通して、自分が素質として本来持っている力を発見することである。さらには、周りにいる人間の多様性を理解した上で、問題・課題の解決につながる思考・判断をすることができ、コミュニケーション能力を活用し、「利他の精神」に基づいて、社会に貢献することができる人材を養成することである。つまり、「自己を知り、他者を受け入れ、社会に貢献する人材を養成すること」に他ならない。

その実現のために、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力を定め、それらを身に付けることを到達目標とする教育課程を編成する。本学は、所定の期間在籍し、所定の単位を修得したことをもって、教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。

（1）自立性・自律性・主体性〔DP1〕

自分自身のものの見方・考え方は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、自分がかもともと具えている力を見出す「己事究明」を通じて、より優れた見方・考え方の獲得を目指して学び続け、いかなる状況にあっても自立性と自律性を持って、主体的に行動することができる。

（2）知識・理解〔DP2〕

学部・学科において自らが学ぶ専門的知識を体系的に理解して修得し、具体的に活用することができる。また、そのことを通じて、自分とは異質な他者を含めて、あらゆる多様性を理解して受け容れることができる。

（3）思考・判断〔DP3〕

情報や知識を論理的に分析して表現したり、問題・課題を発見して、その解決に必要な情報を収集・分析したりできる思考力や判断力を身に付け、問題・課題を解決することができる。

（4）技能・表現〔DP4〕

他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して意見を交わすことができる。また、情報を収集・分析し、その内容を正確に判断して、活用することができる。

（5）態度・志向〔DP5〕

他者の立場や利益を慮る「利他の精神」を養成し、社会の一員としての意識を持って、修得した知識、思考力、判断力、技能等を活用して、社会のために積極的に関与し、社会に貢献することができる。

教育課程編成・実施の方針（全学）

本学は、卒業認定・学位授与に関する方針を到達目標とする教育課程を編成する。基礎教育科目、専門教育科目など必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習などを適切に組み合わせた授業を開講する。教育課程の体系性を示すために、各科目間の関連性や各科目の内容の難易度を表現した番号を付与したナンバリングを行い、カリキュラム・マップを作成するなどして、教育課程の構造を明示する。

1 教育内容、2 教育方法・学修過程、3 評価については、以下のように定める。

1 教育内容

(1) 基礎教育科目

必修区分に、「基礎禅学」、「人権」、「基礎英語」及び大学教育への導入や基礎的なキャリア教育科目を初年次教育科目として配置する。また、選択区分に演習を重視した教養教育科目及び他学科の提供科目を配置する。

(2) 各学部・各学科の専門教育科目

各学部・各学科の各専門分野の学問研究の体系性を考慮しつつ、学修の系統性や順次性に配慮しながら体系的な教育課程を編成する。必修科目の履修年次の指定を始め、各学部・各学科において、各学年次・各学期（前期・後期）ごとに、適切な科目配置を行う。

専門教育科目を中心とする教育内容を統合するために、4回生次に「卒業論文」あるいは「卒業研究」などを必修とし、それらを作成するための演習科目を、3回生次と4回生次に配置する。

2 教育方法・学修過程

(1) 「自立・自律・主体性」（D P 1）と教育方法・学修過程

授業において、学生一人一人の理解度等を考慮して、きめ細かい個別の教育的指導を各教員が行う。授業の内容と試験問題・レポート課題の内容・実施時期との整合性・連携性を適切に保つとともに、それらの採点結果の学生へのフィードバックに努める。採点の際には、ルーブリックを使用することを含めて、評価基準を明確化するとともに、必要に応じて、評価者間において評価基準を標準化・共有化して、適切な成績評価に努める。

学生が学び続け、いかなる状況にあっても自立性と自律性を持って、主体的に行動することができることにつなげることを目指す。

(2) 「知識・理解」（D P 2）、「技能・表現」（D P 4）と教育方法・学修過程

学生が専門的知識を体系的に理解して修得したり、他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して意見を交わしたりすることが

できるようになるため、授業において、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ワーク等といった広義のアクティブ・ラーニングを採用し、学生の能動的な学修への参加を取入れることに努める。

このことを通じて、学生が自分とは異質な他者を含めて、あらゆる多様性を理解して受け容れることにつなげることを目指す。

(3) 「思考・判断」(DP3)、「態度・志向」(DP5)と教育方法・学修過程

学生が情報や知識を論理的に分析して表現したり、問題・課題を発見して、その解決に必要な情報を収集・分析したりできる思考力や判断力を身に付け、問題・課題を解決することができるようになるために、PBL (Project Based Learning/Problem Based Learning。以下、「PBL」という。)やチーム・ラーニングのように、課題を解決する形式の教育方法を授業において採用することに努める。

このことを通じて、他者の立場や利益を慮る「利他の精神」を養成し、学生が社会の一員としての意識を持って、修得した知識、思考力、判断力、技能等を活用して、社会のために積極的に関与し、社会に貢献することにつなげることを目指す。

3 評価

本学では、卒業認定・学位授与に関する方針において、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力(DP1～DP5)を定めた。それらの資質・能力の修得状況を(1)大学、(2)学部・学科、(3)学生個人の3つのレベルで把握・評価する。

評価においては、1・2回生次に実施する初年次教育におけるそれぞれの学生の評価を、3・4回生次に実施する演習科目の教育活動に積極的に生かすなど、形成的評価を基本とする。

(1) 大学

①「卒業論文」あるいは「卒業研究」などの成果、②学生の志望進路に対する進路決定率によって、それら資質・能力の修得状況を評価する。

(2) 学部・学科

①「卒業論文」あるいは「卒業研究」などの成果、②学生の志望進路に対する進路決定率、③当該学部・学科で取得が可能な免許・資格の取得状況によって、それら資質・能力の修得状況を評価する。

(3) 学生個人

①各科目のシラバスにおいて提示された成績評価基準に基づいてなされた成績評価、②「卒業論文」あるいは「卒業研究」などの成果によって、それら資質・能力の修得状況を評価する。

入学者受入れの方針（全学）

本学が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、志願する学部・学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、本学の志願者には、以下の（1）～（5）のことを求める。

（1）自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

（2）知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

（3）思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

（4）技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

（5）態度・志向〔AP5〕

志願する学部・学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。